

小坂 祥子

本児は、本校小学部に入学して6年生となった。自閉症と診断され、同一性保持のこだわりやパニックが強い、コミュニケーションがもちにくい等の数々の不適応行動の見られたH児であるが、入学以来5年間の生活の繰り返しの中で、ある程度は安定して生活ができ始めている。これまで、気に入らないと友だちから離れ、パニックを起こすことの多かった本児に、①先の見通しを立てさせ、自主的に行動させていく配慮をすること、②少しずつがまんをさせて耐性を育てていくこと、③好きなことを生かした授業づくりをすること、④コミュニケーションの能力を高めることにより、少々のごまかし、友だちとともに安定して生活できる力を育てたいと考えた。

1. プロフィール

(1) 生育歴

- ・昭和55年2月11日生 11歳9か月 6年男子
第1子(妹) 正常出産 身体的発達については問題なし。
- ・1歳5か月頃から反応の乏しさに気づく。
- ・2歳2か月から8か月間M保育園で健常児と共に過ごす。
- ・1年半の家庭保育の後、心身障害児通園施設に2年間通園。
- ・昭和61年4月 本校小学部に入学。
- ・昭和62年2月 児童相談所より自閉症と診断される。

(2) 諸検査による実態

図1、2を参照。全発達年齢は大体4歳である。

運動、感覚分野に比べて、言語、社会性において落ち込みが見られる。言語面では、受容言語に比べ表出言語が落ち込み、対人関係や表出言語は、項目によってかなりのばらつきがある。日常生活の繰り返しの中で行なわれる項目はできるが、人との関わりを要するものについては、できていないことが分かる。

(3) 行動特性

- ・指示がなくては、なかなか行動に移せない。
- ・友だちとの関わりがもてず、離れたがる。
- ・同一性保持のこだわりが強く、物が曲がったり、配置が異なると、席を離れてすぐに直そうとする。

[illegible]

図1 遠城寺式乳幼児発達診断検査
(H3.5実施)

[illegible]

第1回 評定	3年5月	日		年齢	満11才3ヵ月
第2回 評定	3年9月	日		年齢	満11才7ヵ月

図2 MEPAプロフィール表

- ・意味のない言葉を繰り返し、意味のある自発語は少ない。問いかけに対してはおうむ返しが多い。
- ・思い通りにならないと奇声をあげ、時にはパニックの状態となる。

2. 取り組みの構想

(1) 指導仮説

過去5年間の取り組みの経緯や本児の変容、発達ぶりを調べてみると、入学時とは比べものにならないほど安定した生活が送れるようになってきている。しかし、それは、まわりの状況設定、対応の工夫等、保護された状態の中でのことが多い。本児も最高学年となり、学校生活にある程度の見通しが立ってきている現在、自然で特別な保護のない状況の下でも自分の力で我がままをおさえ、集団の中でもパニックを起こさずに、自制して生活していける力をつけていくことは、積み残された大きな課題であると考え。以上のことを加味し、指導仮説を次のように設定した。

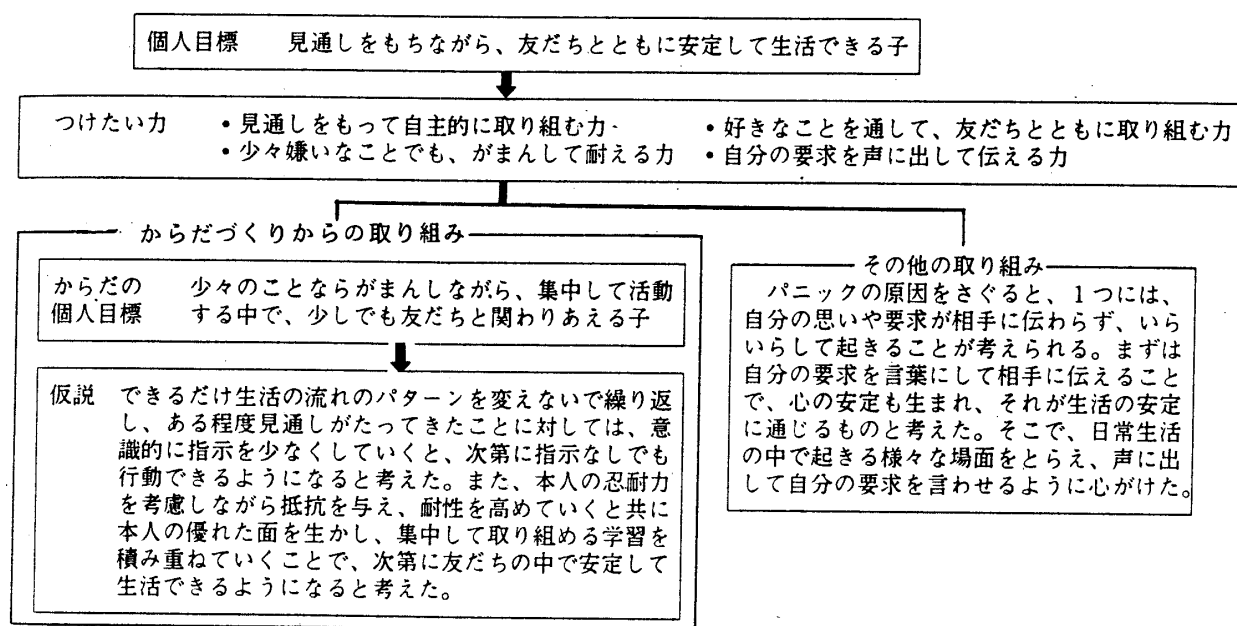


図3 H児の指導仮説

(2) 指導方針

- ① 毎日繰り返す活動を重視して、次第に指示を減らしていき、自主的な行動をとるのを待つ。
- ② 耐性を高めるような対応を心がけ、我がままを通そうとする時は妥協しない。
- ③ 優れた面や好きなことを生かした学習を組み立て、集中して取り組ませるとともに、友だちとの関わりを大切にする。
- ④ 日常生活の中で、自分の思いや要求を言葉で言わせるようにする。

(紙面の都合上、①～③の実践のみ記す。)

3. 指導の実際

① しだいに指示を減らし、自主性を持った実践

1年時から常に繰り返されてきた次の二つの行動について、指示を減らす方向で取り組んだ。

・登校→着替え→学習機（まなぶくん）→個別指導 ・給食→片づけ→歯みがき→休憩

	登校時の様子	指 示	指示後の様子		指 示	片づけ後の様子
4月	玄関に入ってくると、つつ立っている。	強い口調での細かい指示 ↓ 「教室」と指さし	教室にはかけこむが、ランドセルをしまったまま教室内をうろうろする。	4月	「歯みがきにいきなさい」と強くいう。追いかける。	強くいわれると、怒ったような声を出し、洗面所に行く。いつまでも歯をみがいている。
10月	登校と同時に教室へかけこむ。着替えのかごを取り出す。	↓ 何も言わない	自分でかごを取り出し、す早く着替え、自分の席に座って待つ。	10月	↓ 行動が止った時のみ、指示をする。	友だちが注意されたのを聞き、自分も歯みがきに行く。しかし、指示されなければまだ行動に移れない。

何度も後退をくり返したりはしたが、徐々に自主的に行動できつつある様子がうかがえる。

② 耐性を育てる実践

本人の忍耐力とパニックのかね合いを考慮しながら、できるだけ妥協しない態度で接した。

パニックや我がままの様子(4月)	対 応	変容の様子(10月)
- 嫌いなことを強いると大声を出す。衿元のボタンを止めるようにいうと奇声を発して怒る。 - 歯みがきの際、強くこすられると大声を出しパニックとなる。 - したいことを禁止すると怒る。 - 給食時に嫌いなものを食べるように言うとき大声を出す。 - 黙想や学習時に席を離れようとする。	- 強い口調で「がまん」「止めなさい」をくり返す。 「えらい」と誉めながら、また強くこする。 「ダメ」と許さない。 - 少しずつ皿の隅に置き「すごい」と誉める。 - 怖い顔で、もどるよう席を指さす。	- 秋の運動会では1度も大声を出さず参加できた。ボタンを止めようと努力する。 - かなり強いこすりにも体によじりながら耐えられる。 - じっと我慢してあきらめる。 - 野菜類、ハム、じゃがいもなど食べれるものが増す。 - 教師の顔色をみて耐える。目をつむって黙想できる。

以上のように、日常生活面での取り組みから、少しずつではあるが、指示なしで行動できる力や自分自身を制する力が育ってきているように思われる。給食後の歯みがきは嫌いで、指示をのがれて逃げようとする態度が見られる。これも、ある面では見通しの立った行動といえるのかもしれない。

③ 優れた面や好きなことを生かした学習を通して、友だちとの関わりが見られた実践

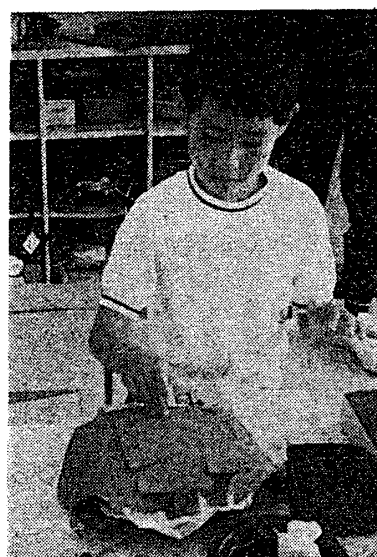
本児は、運動面や手先の器用さにおいて優れた力をもっている。それらの優れた面を充実させることによって集中して取り組む態度を育て、集団の中でも安定して生活が送れるものと考えた。

次にあげるものは、生活単元学習において本児の力を十分に発揮できる教材を準備したり、見通

しをもたせる手だてをすることによって、友だちの中でも安定して学習ができた一例である。

単 元 名	題材名と活動内容	手だてと本児の様子
修 学 旅 行	「水族館をつくろう」 修学旅行を思い出し、 クラスの共同作品とし て水族館を作る。えい の魚を紙を貼って作る。	見本となる魚を横におき、 切った画用紙と水のりを与 える。25分の作業を集中し て行い、できたら友だちと 一緒に水族館を抱えて運ぶ。
七夕発表会	「しっぽをつくろう」 七夕発表会でしっぽと りゲームをするための しっぽをひもを三つ編 みにして作成し、作っ たしっぽで遊ぶ。	きれいなひもの中から3本 の色を選ばせ、「左、中、 右」の声かけをする。1本 作ると2本目に取りかかる。 できたしっぽを大切に持ち、 友だちとゲームに参加する。
運 動 会	「バナナをつくろう」 運動会の競技に使うバ ナナを作る。布袋に綿 をつめて作成し、それ を使ってゲームをする。	どんどん綿をつめて、無言 のまま真剣に取り組む。20 分の作業中一度も席を立た ない。作ったバナナを使い、 楽しくゲームをする。

このような学習を積み重ねていくうちに、本児は学習中席を離れることがほとんどなくなり、安定した精神状態の中で友だちと自然に手をつないだり、自分の物を友だちに貸してあげたりといった関わりさ
えできるようになった。



真剣に魚を作るH児



バナナの綿をつめるH児

4. 考察と今後の課題

以上、H児についての取り組みを3点にしぼって述べてきた。2学期になってある程度耐性もきたえられ、見通しをもって自主的に行動する場面も見られて、パニック状態はほとんどなくなった。安定した学校生活の中では、にこにこ楽しそうな表情を見せたり、大声で笑ったりする姿も見られる。これは、この6年時の取り組みだけでなく、1年時の容認、保護の段階から無理のない抵抗への移行、本児を生かした満足感のある学習の組み立て、あるいは、からだづくりを通しての統合的な引き上げ、といった面がからみ合って培われたものと考え。反面、大体のことが自分の力でのりきれるようになった現在、要求の言葉を発する危機場面の減少から、自発語を発することが減ってきた。友だちへの関わりを大切にしたコミュニケーションとしてのことばの獲得も課題としたい。

来年中学部へ進学する本児が新しい環境の変化にも耐え、安定した生活が送れるようさらに実践を重ねたい。